

♫ 第三回

# オルガン演奏会

#

十八年十月十八日(水)

3時30分開場

3時45分開演

於900番講堂

平成一

18

18

東京大学オルガン同好会



# 御挨拶

本日はお忙しい中お越し下さり、まことにありがとうございます。

前回から一年近く間が空いてしまいましたが、その間に地道に活動을続け、今回また演奏会を開催することができました。これらも皆様の日頃の暖かい御厚意と格別のお計らいあつてのことであり、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、今まで「オペラ座の怪人」「マリオ」と続いて、今回のオープニング曲は「かえるの歌」の旋律を用いたカノン。カノンとは、同じ旋律を、スタートのタイミングをずらして重ねていく作曲技法です。カノンと知らずとも、まさにこの「かえるの歌」でカノン形式の合唱をした経験

がある方も多いのではないのでしょうか。

部が旋律を奏でている最中にも他の声部が旋律を開始して和音をなし、わってしまっても、後から始まった旋律が奏でられ続け、それが終わつた旋律が続き……といった具合に、延々と続きます。

も、カノンのようなものではないでしょうか。先に者も自分なりの活動をしなごら共に和音を作り上げ、活動を続け、新しいメンバーを加えてまた新たな旋オルガン同好会も、このように綿々と続いていくサ

カノンでは一つの声先に始まった旋律が終てもまた後から始まっ良きサークルというの入った者も後から来た先輩が抜けても後輩が律を重ねていく。我々

に今回は意欲十分のした。もちろん、

かえるの歌

主力メンバーの高学年化の進む中、幸いなことと期待の新鋭を加えて演奏会を迎えることができました

ね

秋も深まりつつある今日この頃、オルガンの豊かな響きとともに楽しいひとときを過ごしていただければ幸いです。皆様、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

オルガン同好会一同



# Program

♪ Opening KAERU pour orgue  
(Canon sur le chant des grenouilles)

J. S. バッハ

---

つの プレリュードとフーガ ト

スタンリー

---

ボランタリー ホ

ボランタリー ト

O

パッヘルベル

---

コラール 《 き よりわれは たれり》

人

フェリックス・メンデルスゾーン

---

とフーガ          ハ

．．スウェーリンク

---

《 が    は    ぎ    りぬ 》

J. S. バッハ

---

ト

」



# Program Notes

## J.S.バッハ:小プレリュードとフーガ 第6番 ト長調

それぞれがプレリュードとフーガからなるこの二つの作品は、J.S.バッハによるものなのかどうか わしいということになっています。その二つの曲の余りがあることから、バッハの 子 しくは 孫の ためのものではないか、かれの クレープスによるものではないか、などと ありますが、 かなことは今に まで わかっていないようです。 、バッハのものであろうがそうでなかろうが、傑作とまでは わないまでも らしい をもった作品であることは かなでしょう これまで くの人にバッハの作品 なのであろうと わせてきたくらいなのですから。またオルガン のための としても く られています。この の中から を したいと います。プレリュード・フーガともに仰々しいところがなく、シンプルで しい作品 です。

( )

## スタンリー:ヴォランタリー ホ短調、ト長調

ジョン・スタンリー(John Stanley, 1712-1786) はイギリスの作品 です。 いから事 により ど の えなかったスタンリーは のときにオクスフォードで の 位を しました。 い からオルガニストとして であり、やはりロンドンで していたヘンデルとの交 もあったようです。ちなみに のイギリスのオルガンは の 会に かれていたほど なものではなく、 も られ、で するペダルもついていませんでした。そうした事 を して、 の作品にはバッハが した作品 にしばしば られるような さはありませんが、そのの しさに ていると えるかもしれません。

ヴォランタリー Voluntary という はボランティアと を じくし、「任」といった いを ちます。体 にはイギリス 会の の や にされるオルガンの のことです オルガンを しないことになっていた のに、ある が で きだしたのが まりだとか。今 はスタンリーの あるヴォランタリーの中から、 やかな が しいOp.7 no.7 in E Minor Adagio-Allegro、 の の が なOp.6 no.7 in G Major (Largo - Vivace) のを します。 とも、 となる の い や の仕 は なものと

ってよく、作 の が しめる作 だと います。

( )

## J. パッヘルベル：コラール『高き天よりわれは来たれり』

『 き よりわれは たれり』

カノンで な、あのパッヘルベルによる です。主 となっている は、1535 に のマルティン・ルターによって作 されたもので、ドイツ人なら でも っている なクリスマスの です。

( )

## F. メンデルスゾーン：前奏曲とフーガ第1番 ハ短調

メンデルスゾーンは作 ・ピアニストとして であるが、オルガンの でもありました。1829 からのイギリス では、その なるペダル きによってイギリスのオルガンの に きな を与えたと われ、また 1840 にライプツィヒの トーマス 会でオルガンのリサイタルを いた には、 のために、を いていてもペダルのキィを んでいるような がしたという も っています。

今 するのは、メンデルスゾーンが 1837 ー には 1836 ロンドンのパウロ のオルガニスト、トーマス・アトウッドに げた「三つの とフーガ作 37」の中の 。 ではテーマが 位 によって に し、フーガでは い主 が 12/8 で 々と していきます。

メンデルスゾーンは、 ツェルターの からか、「マタイ 」の やバッハ の トーマス 会でのオルガンリサイタルの による など、バッハに く わった でしたが、この作 でも 位 やフーガの にバッハ が に すことができます。しかし、バッハ を りこみながらも、体の はやはりメンデルスゾーン と うべきもので、 と との を れ くような の は で、かつ しいと えるでしょう。

きを り れ、 の を する、 の と を じさせられる作 です。


( )

## J. P. スウェーリンク：変奏曲《我が青春は過ぎ去りぬ》

ヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリンク Jan Pieterszoon Sweelinck は、16 世 から 17 世 にかけて、アムステルダムの 会で 40 以上もオルガニストを

め、作・ を んに いました。位 に じ、 に で された  
を く しただけでなく、 の 人として く、「アムステルダムオル  
フェウス」と された人 です。また、 としても は く、 の だけ  
でなく、プレトリウス、シャイト、シャイデマンなど くの優 なドイツ人 を  
て、「オルガニスト 」として ドイツのオルガン に きな を与えた  
と われています。

スウェーリンクは、プロテスタント が するアムステルダムの中でカトリッ  
ク信仰を り けましたが、 においても、 しい を み すのではなく、伝  
をしっかりと け いでそれをより させるタイプの作 でした。そして、そ  
の とされるのが、この ≪ が は ぎ りぬ≫です。主 を保ちつつ  
々と を させ、 々な が り げられ、 の では ー を  
する が れ、 めて った で します。

はドイツの ですが、 はすでに われていて、今はこの から  する  
他ありません。また、スウェーリンク はドイツに ったことがないので、おそ  
らく の を して ったのではないかと われています。

## バッハ：幻想曲 ト長調

1708 以 のバッハ 代の作 とされているが、ヴァイマル 代(1708-17)  
もみられます。 のみの るいトッカータ の なパッセージの ー、  
で やかな 5 から る中、そして びトッカータ のパッセージで不  
を ぐ 三 という。

にとってこの との 会いの は、々 中していたあるロックグループのキ  
ーボード がアルバムのメイキングフィルムのなかで せていた さ  
なハーブとのくつろいだセッション のモチーフとして の いパッセージを  
いていたという の でした。

を て、そして という しい を て で いてみると、今一  
を じるのはバスの と上 が な きをみせる中 です。それぞれが  
したメロディーをもつ の の れと、 ごとに する のハーモニー  
を わえるのはオルガンという ならではでしょう。ただし、この き のよろこ  
びを き に してもらう は の 。そこまで する は そうですが、  
オルガンを く しさの一 を じていただければ いです。

# Profile

## Kenji Kobayashi

今の に めてオルガンに った、 がつくほどの です。オルガンは に らしい で、一 ろうものならもう から れられません。今では ても めてもオルガンのことばかり えています。……というほどではないですが すみません、 しずつオルガンの さに れていければと っています。 はピンポンダッシュです。 です。 です。これは ではないです。 、 ー 。

## 人 Masato Kashima

・ など のように り る と、 への不 。でもオルガンを いている は、 に が たされ、 てを い してくれるような がします。この 会では、 はコラル「 めよ、と ぶ が こえ」BWV645を きたかったのですが、 の 、 を れてしまっ てできず、やむな く の な に げました。 こそリベンジ。 、 倫 修 。 を テーマにして、 「 」予 だが、 たして……

## Ayumu Hirasawa

いよいよ の となり、「 」と いたわら 人に五 を ち付け たくなる今 この 、それでも オルガンにはせこせこ っております。 今 は、メンデルスゾーンの に 。 を いていてもペダルを んでいる ような になるまで して ります ……何だか、 も をやっている が えてきそうです。 中 修

## Yukiko Nagashima

カ 予 の修 を える 。しかし 、 事に を 了でき ると仮 すると あくまでも仮 ですが、 のオルガンを ける 会も じく らい 事だし・・・ということで今 は な 会 です。 人 会 コース 修 2



# 編集後記

僕がオルガン同好会に入ったのは、もう2年半前のことです。

「教養学部報」という誰も読まない印刷物に、パイプオルガンの記事が載っていたのがきっかけでした。クリスチャンホームに育ち、生まれてからずっと賛美歌の和声を聴いて育ってきた僕は、パイプオルガンは弾きたくても弾けなかつた。憧れの



ふんぞりかえる



わきかえる

